

## 議 事 録

会 議 名	平成29年度 第2回寒川町生涯学習推進会議		
開 催 日 時	平成30年3月29日（木） 午前10時～午前11時30分		
開 催 場 所	寒川町役場 東分庁舎2階 第2会議室		
出席者名、 欠席者名 及び 傍聴者数	出席者：枝光委員、木村委員、吉田委員、恵羅委員、内野委員、平本委員、三澤委員、 菊地委員、高橋委員 欠席者：八ツ橋委員 事務局：中島町民部長、芹澤協働文化推進課長、 木下協働文化推進課主査、白井協働文化推進課主事 傍聴者：2名		
議 題	報告事項 (1)「寒川 学びプラン」平成28年度事業の評価について (2)「寒川 学びプラン」第3期実施計画後期及び平成30年度実行計画について		
決 定 事 項	○議事録承認委員は、会長及び副会長が務めることを確認。		
公開又は 非公開の別	公 開	非公開の場合その 理由（一部非公開 の場合を含む）	
議事の経過	<p>1 開会 芹澤協働文化推進課長</p> <p>2 新任委員自己紹介（資料1） 選出団体等からの委員変更届に伴う委嘱 枝光委員（寒川町子育て支援センター）</p> <p>3 あいさつ 三澤会長</p> <p>4 議事録承認委員の指名 承認委員は三澤会長、恵羅副会長が務めることに決定する。</p> <p>5 報告事項 (1)「寒川 学びプラン」平成28年度事業の評価について（資料2） 資料2について、事務局から説明。 資料2「寒川 学びプラン」平成28年度事業報告（案）について、2ページから35ページまでは各事業担当課から提出された平成28年度の事業報告で、昨年7月開催の第1回生涯学習推進会議で既に確認いただいたもの。それに、表紙と1ページの事業実施状況の概要、36ページの平成28年度事業報告の評価（案）を追加した。 町の若い世代の移住・定住促進等に向けた取組として、『「高座」のこころ。』をブランド・スローガンとして全町的に展開していくため、町の発行物には町ブランド・マークを入れるということで、新たに表紙の左上にマークを入れているので、ご了承いただきたい。 今年度第1回の会議で、プランの毎年度の事業実施状況の評価する方法として、会議での意見等を事務局が集約し、各事業担当課の事業報告に対する推進会議の評価案を作成し、委員の皆様にご確認いただき、推進会議の評価としてまとめ上げていくという流れで進めていくということで、ご了承いただいた。36ページに、推進会議評価の事務局案を記載した。 まず、平成28年度の事業報告全体として、この形でご了承いただけるか、また、評価の事務局案をたたき台として、追加すべき文言・内容や削除等の修正を</p>		

し、推進会議としての評価をまとめていただきたい。今回の会議でまとめた評価は、後日、町民へ公表する。

なお、この会議の事前に送付した資料と本日机上配布した資料ではレイアウトを一部変更している。プラン第3期実施計画を策定した際に、生涯学習の推進にあたり特に重点的に取り組む事業を、5事業特出しをしている。この5事業が分かりやすいように、「重点事業①」から「重点事業⑤」の表記を、表の左側の位置に変更した。重点事業の進捗状況、成果・課題等も踏まえて、平成28年度実施事業の評価をしていただけたらと考えている。

(会 長) 最終的に公表する際に、事務局案の平成28年度事業報告とあわせて推進会議の評価をまとめる形式とすることについて、意見はあるか。なければ、この形式でよいか。

<「はい」の声あり。>

(会 長) それでは、事務局案の形式で公表していくこととする。次に、生涯学習推進会議評価を検討していただきたい。意見等をお願いする。

(会 長) 事務局案に「町民のニーズに合った講座や教室になるよう内容を検討していただきたい」とあり、何年もこれでやっていると思うが、20年以上、同じ講師、同じ講座がある。この文章だと、文章を出すだけのことになるので、もう少し言い方を変えてみては。講座等はアンケートをとっているのか。とった上で、新しいニーズに応じてほしい。「新たなニーズに対応した講座や教室」としては、いかがか。

(事務局) 大体の講座や教室では、実施後に参加者へアンケートをとり、満足度や内容についての意見、開催してほしい講座等ニーズの把握もするようにしている。満足度が高い講座は、同じ内容で実施しているものもあるが、確かに毎年同様という部分もある。

(委 員) 事業報告の評価欄は、回数、参加人数等の目標数値に対する実績値の評価だけか、事業を実施し全体としての満足度等を踏まえた評価か。

(事務局) 各事業担当課の事業報告のA、B、C、D評価欄は、1ページの「事業実施状況の概要」の「評価方法」に記載されている目標数値の達成率により、記載する。ただ、1つの数値だけでは判断できない部分があるので、「事業の成果・課題等」欄に、それ以外の部分を記載してもらった。推進会議としての評価は、A、B、C、D評価に対してだけでなく、成果・課題等も含めて全体に対しての評価をお願いしたい。

(副会長) 毎年、この評価案は出ていたか。これだけ項目が多い事業の最終評価としては、内容的に少し簡潔過ぎる。企画・立案のどのような部分が不十分だから、その点を見直す必要がある、という具体的な内容がないと漠然としていて伝わらないのではないか。

(委 員) 評価がAだから、同じ講座等がずっと続いているのか、料理教室やピアノコンサート等は20年以上続いている記憶がある。ある程度個別に指摘するのも一つの案ではないかと思う。

(委 員) 評価の区分は、目標数値を、例えば募集人数100人なら100人として、90人参加したから90%ということか。ただ人数が集まれば良いというものではなく、プラス中身の問題もあろうかと思うが。

(事務局) 目標数値が100人のところ、実績値が90人の場合は、90%以上と

ということで、A評価となる。評価欄の部分は、そのような分け方になる。

(会 長) 32ページの参加を支える環境づくりでは、C評価がついているが、平成30年度はAになるようなことを考えているか。

(事務局) C評価の事業は、講座開催時の託児実施(事業No.79)、手話通訳・要約筆記等の設置及び派遣(事業No.80)、夜間開催(事業No.82)、アンケート調査の実施(事業No.83)、インターネットを活用した参加申込み(事業No.84)だが、講座ごとに対象者が違うため、土日休日や夜間開催が適さない場合、例えば、小さいお子さんのお母さんを対象にしたもので平日の昼間の時間帯が良い場合もあり、一概に目標の達成率だけでは評価できない部分がある。こちらは具体的な各事業担当課の実施状況内訳を34ページ、35ページに記載し、事業担当課に「事業の成果・課題等」欄に、特記すべきものがあれば書いてもらっている。

平成30年度の実行計画では、事業ナンバー79から84については、目標数値は基本的に変更していない。例えば、アンケート調査の実施は、講座等の内容、事情により、アンケートが実施できない場合があるが、本来、100%の実施が望まれるため、プランの主管課としてはできる限り実施をお願いするという事。

惠羅副会長のご意見、「どのような部分が不十分なのか」については、課題となるポイントを入れ、高橋委員のご意見のとおり、社会教育振興事業については、長期間にわたって同一の内容の講座や教室が開催されている状況が見られ、それは住民のニーズを満たしているものなのか、というところも踏まえ、講座や教室の企画・立案部分の見直しが必要ではないかというところを入れた評価とさせていただくことでよろしいか。また、文章の細かい部分のたたきは、会長、副会長と事務局にお任せいただくことでよろしいか。

(副会長) それでよろしいと思う。もう1点、評価は、達成できたところと達成できなかったところについて、客観的に結果を眺める立場で書き、特に5つの重点項目については、評価できちんと取り上げ、結果をコメントすべきだと思う。

(事務局) 1ページの評価の結果をご覧くださいと、例えば、第1節の情報提供体制・相談体制については、全ての事業が目標指標を達成している。第1節には、重点事業①と②が含まれているので、目標が達成されており、十分な体制づくりができており、引き続き体制の維持・充実を図っていただきたいといった評価を入れるということではいかがか。

(会 長) そのような具体があると良い。それでは、事務局と会長、副会長でまとめるといいことではよろしいか。

<「はい」の声あり。>

(会 長) 公表までの手続きとしては、どのように進めるか。

(事務局) 本日のご意見をまとめて、修正した公表案を事務局で作成し、会長、副会長に確認いただき、了承を得た後、町民に公表するという流れで進めていきたい。

(会 長) その進め方でよろしいか。また、最終的な確認段階で、文章表現の部分などは会長の私に一任していただけたらと思うが、よろしいか。

<「はい」の声あり。>

(2) 「寒川 学びプラン」第3期実施計画後期及び平成30年度実行計画について  
(資料3、4)

資料3について、事務局から説明。

「学びプラン」の第3期実施計画は、平成28年度から平成32年度までの5年間。町総合計画が、平成27年度から平成29年度までが第2次実施計画、平成30年度から平成32年度までが第3次実施計画のため、「学びプラン」の第3期実施計画を、平成28年度から平成29年度までの前期、平成30年度から平成32年度の後期に分け、本年度(平成29年度)実施計画の中間見直しを行い、プランと町総合計画の実施計画の土台となる毎年の実施事業の整合性を図った。プランの基本的な方向性に変更はないが、目標指標、目標数値が適しているか等を中心に修正をし、第3期実施計画後期(案)を作成した。

資料4について、事務局から説明。

第3期実施計画後期及び平成30年度実行計画について、前期や平成29年度から変更をしたところは次のとおり。

・事業NO.8 子育て支援センター事業

前期と比較して、事業実施する上での目標数値の子育て支援センターの利用者数を減らしている。

前回会議で、幼稚園のプレ保育の影響により、利用者が大分減っており、目標数値が適しているのか、というご意見をいただいたが、子育て支援事業計画の見直しを行ったことにより、この実行計画の数値も変更した。

・事業No.14 青少年を対象とした事業

この事業を含めて公民館事業全般が同様だが、指定管理の導入で、従来の町事業の継続以外に、公民館の独自事業も実施している。平成30年度は町民センターの子ども映画会、昔遊び教室等が新規事業。目標数値に対する実績値の数を公民館3館で統一したことと、独自事業(新規事業)分が目標値の増加の理由。

・事業No.21 高齢者生きがいづくり等支援事業

事業内容の中で、名称変更に伴い、「老人クラブ」を「シニアクラブ」に変更した。

・事業No.34 スポーツボランティアの育成・活動促進

平成29年度目標数値がボランティアの登録者数50人だが、平成28年度の実績が0人だったため、前回の会議で、目標数値が適していないのではないかとご意見をいただいた。

ご意見を事業担当課へ伝えたところ、年間のボランティア登録だったのを、イベントごとのボランティア募集とし、その応募目標人数を目標数値に設定した。平成30年度以降の実績値により、目標数値を適宜修正していく。

・事業No.47 消費生活に関する講座等の開催

目標数値である講座・教室等の開催回数を、1回から3回に増やした。

広く一般の方向けの講座を開催していたが、参加者が少なかったため、自治会の会議等の一部の時間を短時間でもいただき、最近の事例を伝えたり、パンフレットを配布して啓発をしていき、その回数を増やして効果を出したい考え。

・事業No.59 協働事業提案制度推進事業

現在、制度の見直しを行っているため、平成30年度以降は目標数値ではなく、平成30年度は「人材発掘・制度見直し」、平成31年度は「事業選定」、平成32年度は「制度開始」と、目標を設定した。

平成30年度事業予定は、今までと基本的な事業の趣旨・目的は変わらないが、事業の進め方、制度的な面の見直しをしていく。

・事業No.76 学校体育施設の有効活用

組織の見直しにより、平成30年度から担当課が、教育総務課から教育施設・給食課となる。

第3期実施計画後期と、平成30年度実行計画について、この案により進めてよろしいか、ご確認をお願いします。

(委員) 各実行計画で、何をもってこういう事業をやるのかというところ、最終的なゴールがどこにあるのかというのが、見えてこない部分がある。やらなければいけないから、こういう事業設定をするという感じに捉えられる事業がいくつかある。

事業No.83の講座開催時のアンケート調査の実施について、平成30年度事業予定は、アンケート調査を実施するよう各事業担当課へ依頼する、とある。満足度や課題を把握するためということは明確に分かっているので、やる意味があると思うが、事業予定で「依頼する」とした時に、依頼してやってもらえなかったら、そこまですべてになってしまうのではないかなというのもある。

また、実績報告には課題等が入っているが、実行計画にも、数字等が載っていると、事業構築する上で、非常に良いかと思う。

(事務局) 担当課が平成28年度実績の課題や成果を、資料2で報告して、それに対して、委員の皆様から評価をしていただくが、実際にそれを反映できるのが、翌年度ではなく、翌々年度になってしまう。実績報告と評価の取りまとめをし、翌年度すぐに反映させるのが難しい。

ただ、担当課の課長級で構成する庁内の推進体制があるので、いただいた意見は担当課にフィードバックし、平成30年度実施事業も、見直せるものは見直してほしいという話はする。

また、アンケート調査の実施についても、例えば基準となるようなフォーマットを配布する等、実施に向けた働きかけもできるように考えていきたい。

(委員) 事業No.78の地域集会所の有効活用で、町民としては身近な集会所を利用するのが一番良いが、地域により、利用料の金額が違う。その点の調査はしているか。利用料が高くて利用できないという話を聞く。

(事務局) 地域活動の利用の場としては、地域集会所と地区集会所の2種類ある。地域集会所は、町が建設した町の建物を、自治会を中心とした運営委員会に指定管理で依頼している。利用料は取らないが、実費分として、光熱水費やトイレトーパー、清掃にかかる消耗品の相当分を、1コマ大体3時間程度、1会場300円という基準が示されているので、その金額で徴収をしている。

地区集会所は、自治会が建設した自治会所有の施設。町では利用料の取り決めをしておらず、自治会ごとに利用料、使用料という名称で、徴収しているケースがあると思われ、その部分は集会所ごとに差があるかもしれない。自治会としては、自治会所有の施設を維持・運営していく費用を、利用料で賄わないと、運営していけないので、建物の規模等も勘案して、設定しているかと思う。町から利用料を統一的にというのは、難しいところ。

(委員) 自治会の経営だと思うが、町から補助を出すのも難しいか。

(事務局) 地区集会所に対して、運営にかかわる経費の一部は、町から交付金という形で補助はしているが、全額は賄えない実状がある。

(委員) 町としてプランを実施するための年間予算はどのくらいか。

- (事務局) 学びプラン実施のための予算という予算どりの仕方ではなく、各課が事業ごとに必要な経費を要求し、積み上げている。学びプラン全体でいうと、それぞれの事業を全部足し込んだ金額なので、把握が難しい部分がある。
- (委員) 町も厳しい財政状況だと思うので、これだけ膨大なことをやれば良いというものではなく、メリットのないものは削除してもいいのではないかと感じる。
- (事務局) 予算は、歳入の見込みも含めて、総額として大体の枠がある。その枠に当てはまる予算を決めるに当たっては、本当に必要な事業かの精査、一定程度成果が出ているのであれば終了する等、事業の選択、統廃合、また、必要なものは新規事業という形で、見直しを図りながら決めている。
- (委員) それは自分たちで事業の精査を行っているか。第三者がやっているか。
- (事務局) 町の執行者側が予算要求をし、予算案をつくるが、最終的には、町民の代表である議会に議案としてかけられて、議員の皆様が審議し可否を決める。また、実施事業は、総合計画に基づき、外部評価を受けている。
- (副会長) 例えば、事業No.14の青少年を対象とした事業について、目標指標を立てて、それを数値化して増加につなげるというのは、どこでもやっていて、無理やり数値化するところがある。市場原理が働くのならば良いが、アーティストや芸人さんが、何回コンサートをやったというのは、需要がなければできないので、回数が一つの指標になる。  
ところが、青少年を対象とした事業は、去年好評だったからというニーズがあるのを反映しているかとも思うが、必ずしも商売でやっているわけではないので、市場原理はない。そういうところで開催回数を指標にしても、何の意味もない気がする。  
むしろ参加率、参加人数、満足度の方が良いのではないか。公の機関がやることの成功、不成功の指標としては、講座回数は違和感がある。適切な指標か、幾つか見直した方が良い気がする。
- (事務局) 指標については、さまざま議論があるところで、いわゆるインプット、実際に実施する方の指標であったり、アウトプットの成果の方の指標であったりしている。本来両方ともできれば良く、また、満足度のようなどころをはかれないと、実情がはかれないのではないかとということもある。総合計画との兼ね合いも含めて、今現在、第3期についてはこの指標で決めている。講座の開催回数、参加人数、定数といった数値は、なかなか難しいところもあるが、必要に応じて、委員の皆様の見意をもとに、見直せるところは見直していきたい。
- (委員) 委員になってから少し経つが、最初の会議でも、講座数が非常に多く、多岐にわたっていて、かなり大きな事業で進んでいて、講座の選別等、この資料だけでは分かりづらいなというところがあった。  
予算の兼ね合い等で、統廃合、新規事業ができていると思うが、そのプロセスがわかる資料があると、わかりやすいと思う。一つに集約するのは難しいかと思うが、町民の皆さんに出した時にも、わかりやすいのではないかと感じた。
- (事務局) 町の各部署で実施している講座、教室が大体、年間150なので、その一つ一つの廃止理由、新規の企画を全部というのは難しいが、実績報告をまとめ上げる中で、見直したポイント、特徴的な取り組み等を、「事業の成果・課題等」のところで、記載が可能なところは記載し、分かりやすくするよう、担当課に伝えていきたいと思う。

(委員) 学校の立場で、具体的に言わせていただくと、事業No.52の選挙に関する出前講座・模擬投票は、3月に、平成30年度の案内をいただいた。平成28年度の事業報告では、目標2校中、小学校1校で、C評価。平成29年度は、小学校2校実施しているので、Aに上がるが、それで良いという評価を出せるかと言えば、寒川には小、中、高、合わせて9校あり、そのうちの25%となる。

中学は3年で選挙について勉強し、選挙年齢も下がったので、案内をいただいたら、やりたいと思うが、来年度どこにも入れられないという実態もあり、1学年、3年生を対象に午後の2時間をとるという、それもなかなかやりくりが難しいというところがある。

平成28年度の事業報告では、事業の成果・課題等で、「今後は、実施数を増やせるよう取り組みを行っていく必要がある」とあるが、案内しているだけでは多分、増えていかない。小学校で3つ目、4つ目が出るかもしれないが、中学校3校は、そこから抜け落ちるんだろうなど。

では、強制的にやりなさいと言えるかといったら、そういうものでもなく、難しいところだが、やりたいけれど、できないという実態もある。

(委員) 南部公民館の生涯学習推進員が4年目になるが、南部公民館で行われている数々の催し物の参加者が、いつもメンバーが決まってしまういたり、推進員が半分は入っていて、あとは皆さん顔見知りの方が多いというのが非常に多く見受けられる。

推進員も高齢者が多いので、募集の方法、募集内容を、どのようにしたら若い方が推進員になっていただけるか。世代交代すれば、内容もかなり変わってくるのではないかと思う。非常にマンネリ化した部分があり、マンネリ化を打破するには、若い推進員の方々が来ていただきたいという思いで、推進員として活動している。

(事務局) 推進員の問題等、今いただいたご意見を、担当課に報告し、変更が可能なところは見直していく。

(会長) それでは、「寒川 学びプラン」第3期実施計画後期（平成30年度～平成32年度）に基づき、各事業を進めていただくことでよろしいか。

また、平成30年度事業については、この実行計画に基づき、進めていただくということよろしいか。

<「はい」の声あり。>

## 6 その他

### (1) 会長より、「子育て支援グループはぐはぐ」の事業について

自然と遊ぼうというイベントで、参加者から実行委員を募集したら、若い方が生き生きとやっている。サークルの中でも、若い方を育てることを心掛ければ、育っていくと感じた。

### (2) 事務局より、平成29年度開催講座の事業報告

「生涯学習支援セミナー」（参考資料1）

今年度は、茅ヶ崎市と合同開催を試み、講座終了後に参加者同士の交流時間を設けた。

「文教大学出張講座」（参考資料2）

地元学をテーマに開催し、住民による地域づくりに繋がる内容となった。

## 7 閉会

恵羅副会長

<p>配付資料</p>	<p>資料1 平成29・30年度寒川町生涯学習推進会議委員名簿  資料2 「寒川 学びプラン」平成28年度事業報告(案)  資料3 「寒川 学びプラン」第3期実施計画 後期(平成30年度～平成32年度)  (案)  資料4 「寒川 学びプラン」第3期実施計画(後期)平成30年度実行計画  参考資料1 平成29年度生涯学習支援セミナー 事業報告書  参考資料2 平成29年度文教大学出張講座 事業報告書</p>
<p>議事録承認委員及び  議事録確定年月日</p>	<p>・三澤 米子      ・恵 羅 博    (平成30年6月29日確定)</p>